

2019 年夏合宿(劔岳 熊の岩ベース)山行記録

■日時：2019 年 8 月 9 日（金） 22:50 新大阪出発～8 月 14 日（水） 帰阪

※計画では 8 月 17 日帰阪予定であったが、台風 10 号の影響を考慮し日程を短縮

■メンバー：中嶋宏幸、大村静穂、田中健志、西川高士 ※田中健志は 8 月 13 日に帰阪

■山域：劔岳

■山行目的：アルパインの経験値を高める

■山行概要：

- ・ 8 月 10 日 室堂（9：30）～劔御前～劔沢～長次郎谷～熊の岩（16：30）
- ・ 8 月 11 日 八峰 6 峰 C フェース劔陵会ルート（7：00）～V・VIの科尔へ下山（15：00）
- ・ 8 月 12 日 V・VIの科尔から（5：30）、八峰上半縦走、池ノ谷乗越から長次郎谷雪渓を下山（12：30）
- ・ 8 月 13 日 八峰 6 峰 A フェース魚津高ルート（6：00）、D フェース富山大ルート～下山（15：00）
- ・ 8 月 14 日 熊の岩（6：30）～長次郎谷～劔沢～劔御前～室堂（12：30）

■詳細：

8 月 9 日(金)

新大阪駅の阪急高速バス乗り場から中嶋さん、大村さん、西川で集合しバスに乗り込み、富山駅に向う。

田中さんは、直前参加のためバスが予約できず、単独で自家用車で立山駅に向かった。

8 月 10 日(土)

富山駅から、電車で立山駅に向かい、田中さんと合流。田中さんに先にチケット購入をお願いして、30 分ほどの待ち時間で立山駅からケーブル、バスを乗り継いで室堂に到着。天候は快晴でかなり暑い。水を多めに補給し各自 1 週間分の食糧と飲み物で 25 kg～30 kg に膨れ上がったザックを担ぎ出発。

30 分ほどで雷鳥沢キャンプ場を下り、そこからは劔御前へ 1 時間半ほどで登る。これだけ重たいザックにもかかわらず「今日 1 日だけでもビールが飲みたい！」という熱い想いで小屋でロング缶を購入。劔沢キャンプ場を経て劔沢雪渓へ。そこからはトレーニングとしてノーアイゼンで下るが傾斜が強くなるとみんなよく滑っていた。

長次郎谷でアイゼンを装着し、この日最後の試練の雪渓登り。遠くに熊の岩が見えては来るがなかなか近づかない。力を振り絞り出合から 2 時間半ほどでようやく熊の岩に到着（16 時半）。この時間でテントはけっこう張られていたが、一番奥の広い場所はまだ、空いており、テン場を確保。すぐに冷えたビールが飲みたくて雪渓にピッケルで少し掘ってビールを冷やす。その作業中、突如大村さんのビール缶からプシュー！とビールが噴き出した。どうやらピッケルでビール缶に穴をあけたようだ。しかも立て続けに田中さんのビール缶からもプシュー！少々飲めるビールは少なくなったものの 2 人とも十分満足できるくらいのビールは飲めたようだ。

この日の食担は田中さん。途中で下山することと前半の食担ということもあり、生食材（豚肉、キャベツ、ニンジン、玉ねぎ）を担ぎ上げて鍋をふるまってくれた。



〔室堂での出発時〕



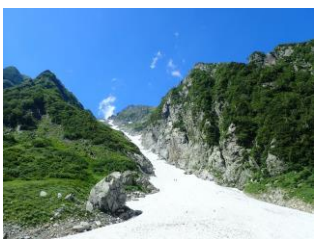
〔雷鳥沢〕



〔劔御前小屋〕



〔劔沢〕



〔平蔵谷出合〕



〔長次郎谷出合〕

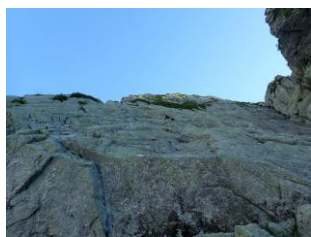


〔熊の岩から、6 峰フェース群〕

8月11日(日)

起床は明るくなる 5 時。6 時に出発し、まずは足慣らしに 6 峰フェース群のなかでも一番人気が高く初級者向けの C フェース剣陵会ルートの取付きに向った。もうすでに数組が取付いており、1 組が待っていた。順番を待ちながら準備を進める。7 時過ぎに中嶋 - 大村ペアが先行し、田中 - 西川ペアが後に続いた。各ペアつるべで登る。

先行ほどでようやく V・VI のコルへ到着。この時すでに時刻は 15 時前であった。テントに戻りしばらくすると、馬場島から剣尾根を縦走してきた小林さんと吉田さんと合流し、にぎやかに田中さんの 2 日目の鍋を楽しんだ。



[C フェース取付きから]



[検陵会ルート2P 目]



[C フェースの頭]



[V・VI のコルへの下降中]

8月12日(月)

4 時起床、明るくなりだす 5 時に出発し、八峰上半部縦走の起点となる V・VI のコルへ向かう。ロープなしで登れそうな箇所を見つけ登りだすも、すぐにロープがないと厳しい箇所に。そこから、中嶋さんリード、西川はフリクションで登りその後、大村さん、田中さんがセカンドで登攀。3 ピッチで縦走路らしき箇所に合流。そこへ縦走路から登ってきた方に訊くと、我々が登ったところからもう少し先に縦走路の登り口がありそこからだとロープは使わずに登れるとのこと。

その後歩きで 6 峰の頭に到着。懸垂下降で下る。その後西川先頭で、降り立った箇所に顕著な登山道があり、巻きながらその道を進む。しばらく巻いて進んだ先にクレオパトラニードルへ続く道が見え、その手前で踏み跡がある箇所を登りだすが、途中ハイマツ帯となり、厳しい箇所が現れ、ロープを出し 1 ピッチで縦走路へ合流。そこで縦走者にお訊きすると VII 峰は巻かずに稜どおしで登るのが正解であったようだ。

VII から短い懸垂で下り、2 級程度の岩登りで八峰の頭へ。50m ダブルロープいっぱいの懸垂下降で池ノ谷乗越へ下降。その後、急な雪溪の下りを横向きになり 6 本爪のアイゼンで慎重に下り、正午過ぎには BC に到着。午後は時間がたっぷりあったので、UNO や昼呑み、昼寝をしてのんびり過ごした。この日の食担は西川。初めて使用する「ベジミンチ（大豆の乾燥食材）」を加えた、ウマーメシ（坦々麺味のカレーメシ）を作ったがなかなか好評だった。



[V・VI のコルから登りだし]



[6 峰の頭に向けての登り]



[VII 峰]



[途中で見えたチンネ]



[池ノ谷乗越からの雪溪の下山]



[熊の岩で UNO を楽しむ]

8月13日(火)

4時起床。5時半にはAフェース魚津高ルートの取付きに。先行パーティーが1組準備をしていた。ピッケル、アイゼン、靴などをデポし、ここでも中嶋-大村ペア、田中-西川ペアで登攀。最初の1ピッチ目の凹角から右上し浅いチムニーに差し掛かるあたりが難しかった。2時間ほどでAフェースの頭に登頂。V・VIのコル側に少し下ったところの草付きの合間から開けた箇所があり、1ピッチの懸垂下降で降りることができた。その時の時刻は9時、田中さんはここで下山となった。デポしていた荷物を回収して、AフェースからDフェースの取付きに向かう。Dフェース下部の雪渓を超えて向かったが、この雪渓は大きく巻いていくこともできたようだ。3人組の方が難しい左ルートに登っていたが、どうやらそこは富山高ルートと間違えて登っていたようだ。我々に先に登らせていただき10時半登攀開始。事前にトレーニングをしていた3人での登攀システムで西川リードで登りだす。その後中嶋さんとおつるべで登る。途中A0の垂壁の核心部では、中嶋さんリードで登る。約3時間で登り終え、Dフェースの頭に。そこからV・VIのコル側へ向かう。懸垂ポイントらしきところで懸垂支点を探すなかなか見つからない。よく探すとブッシュの下の方に見つけることができた。西川先頭で懸垂を行い、次の懸垂支点を探しながら降りるがなかなか見つからない。降りられそうな支点を見つけて、後続メンバーに降りてきてもらうが、見つけた懸垂支点は間違いで近くのブッシュの下にしっかりした懸垂支点が見つかって、そちらを使って降りるとほぼ50mで降りきることができた。



〔魚津高ルート取付き〕



〔魚津高ルート3P目〕



〔Dフェースの頭〕

8月14日(水)

この日は室堂へ下山のための、ゆっくり目の5:00起床。朝食には3日間続いた雑炊に飽き、カレーうどん。食後、テント撤収を行い、長次郎谷の雪渓を下り始めた。予定を短縮したため3日分の食糧はそのまま残ったため、各自のザックの重量は飲みほしたお酒分くらいしか軽くならず25kg前後であったと思う。標高2580mの熊の岩から、アップダウンを繰り返して標高2420mの室堂に降りるので、下山といっても半分弱は登りである。特に最後の雷鳥沢から室堂までの階段の登りはきつかった(汗)

立山駅に着き、千寿荘に向かうが、なんと、団体客多数のため日帰り入浴を断られ、一旦富山駅に向う。3人の総力を結集し情報収集を行うことで、「劔の湯 野乃」を見つけたことができた。富山駅からは市電に5分ほど乗り降りてすぐのところ。新しくてきれいな天然温泉でなかなか素晴らしかった。5日分の汗を流してさっぱりとして、新幹線で金沢、サンダーバードで大阪へむけ帰路についた。

お疲れさまでした！

■感想・反省

本格的なアルパインクライミングが初体験の新人3人を連れて、随所でチャレンジをさせていただき、ご指導していただきました中嶋さんありがとうございました。なかなか新人たちだけでは行けないような場所でのアルパインクライミングデビューができて、本当に充実しておりました。

その貴重な体験の中で、私が感じた、反省や今後に生かすべき学び、気づきをいくつか書き残したいと思います。

1点目は、随所で次の行動を考える。自分ができるところを見つけ協力し時間短縮を意識すること。クライミング自体はなかなか時間短縮をすることは難しいが、ロープをさばいたり、懸垂の準備をしたり、次の行動を全員が考え、ばーっとすることなく、次の行動を考えることが必須である。特にグレンデとは違って、複数ピッチの懸垂下降をす

るときに、先に降りたものが次の懸垂にむけて何をすべきかを考え効率よく行動することが必要だと思った。

2 点目は、下山が核心。ルートや下山時の懸垂下降点のを見つけ方。降りていく方向を見定めて降りる。上から見てもわかりにくいブッシュの根元に下降点があることが多く、上から見るだけではなく、下から見返しながら探ることが重要であると思った。

3 点目、はルートファインディングで常に間違えても逃げれることを想定して登ること。ハイマツ帯や岩のピナクル、ハーケンが使えるなど、この先行き詰まった時でも逃げることを想定しながら登ることが絶対に必要である。

4 点目は、落とし物に注意する。今回懸垂下降後に下降器（ATC ガイド）を落としてしまった。懸垂下降後、確実に下降器とカラビナが接続されていることを確認してギアラックに戻す癖付けが必要である。

これらはゲレンデではなかなか経験できないことであり、今後もこういった経験から学びえることを増やしながら、安全で迅速なアルパインクライミングを心掛けたいと思う。